



校長室だより

Newsletter from the Principal 校長簡訊



新堀 隆久

また、それぞれの場所から～ 輝ける明日を創ろう～

みなさん、こんにちは。夏休みも、終わりが近づいてきました。部活動の練習に汗を流した人。進路に向き合い、勉強を重ねた人。アルバイトに励んだ人。家で静かに自分を休ませていた人。思うように動けないまま時間が過ぎてしまったと感じている人。どんな夏休みであったとしても、それぞれの時間を過ごしてきたことと思います。まずは、みなさんに「おつかれさま」と伝えたいと思います。

もうすぐ2学期が始まります。学校が始まるのを楽しみにしている人もいれば、まだ気持ちが追いつかない人、少し緊張している人もいるでしょう。無理に気持ちを切り替えなくても大丈夫です。2学期も、それぞれの場所から少しずつ始めていけばいいと思います。

「生徒全員が主役」…主役という、みんなの前に立ったり、周りを引っ張ったりする人を思い浮かべるかもしれません。先日、スポーツチームのリーダーシップについて書かれた5年前の新聞記事を読みました。そこでは、主将が必ずしもリーダーではないという考え方が紹介されていました。フィールドで力を発揮する人。仲間の話を聞く人。誰かの挑戦を応援する人。目立たなくても、自分の役割を果たす人。一人ひとりが、それぞれの得意な場所で力を発揮する。こうした考え方を「シェアド・リーダーシップ」といいます。

私は、「生徒全員が主役」という本校のスローガンにも、同じような意味があると思っています。2学期、もしよかったら、例えば次のことを意識してみてください。

1 「こうしたい」をもってみる

例えば、「今日は自分から挨拶してみよう」「この行事でこれをやってみたい」大きな目標でなくて構いません。自分の気持ちを誰かに伝えてみる。それも、自分の学校生活をつくる一歩です。

2 誰かの「こうしたい」を応援する

友達が何かをやってみようとしていたら、「それ、いいね」「手伝うよ」と一言かけてみる。立派なアドバイスはいりません。誰かの挑戦を認めることも、大切なリーダーシップです。

3 自分から小さく動いてみる

例えば、自分から挨拶をする。ゴミを一つ拾う。困っている人に声をかける。そんな小さなことで十分です。

手探りでも、自分のペースで大丈夫です。そして、誰かのペースも大切にしてください。「生徒全員が主役」というのは、みんなが同じように頑張ることではありません。一人ひとりが、それぞれの場所で、自分なりに学校に関わっていく。その集まりが、大洗高校の毎日になっていくのだと思います。2学期、学校でみなさんに会えるのを楽しみにしています。